

閑話休題

～ベトナムとの国際交流と 日本語サークルの立ち上げ～

21VNT (ベトナム貿易株式会社)

代表取締役 藤井 三樹夫

◆経歴◆

昭和52年～56年 科学技術庁原子力局調査国際協力課
(東京都・霞が関)
昭和56年～63年 日本原子力研究所安全工学部
(茨城県・東海村)
平成元年～5年 国際原子力機関 (IAEA) 広報部
(オーストリア・ウィーン)
平成5年～11年 大型放射光施設 (SPring-8)
(兵庫県・播磨)

1. 前書き

つくば市の担当課を經由して筑波総研株式会社から本誌への寄稿依頼がありました。参考のために送付されて来た「筑波経済月報」の内容を拝見させていただくと、当然のことながら、経済人を対象にした硬派の雑誌との印象を受けました。

私の肩書は21VNT代表取締役となっていますが、これは名義上だけの肩書です。後述しますが、現在、この会社は日本での営業活動を行っていません。

一方、私の「つくば市シニア・エキスパート」登録内容は、「原子力・放射線」と「英語及び国際交流」です。皆さんに経済問題から離れて一服してもらうために、その中から私が今関係しているベトナムとの国際交流について書かせて頂きます。

2. 日本とベトナムの関係

フィリピンが呂宋^{ルソン}と呼ばれていた頃、ベトナムは安南^{アンナム}と呼ばれていました。また、日本とベトナムの関係は結構古く、朱印船貿易が盛んだった17世紀初頭、中部のHoi An (ホイアン) という街には、オランダ人や中国人等に混じって、1,000人近くの日本人が住んでいたと言われています。



■写真1 ホイアン日本橋 (画像出所:筆者)

ホイアンの当時の面影を残すレトロな雰囲気のある街並みは、現在、世界遺産に登録されており、毎年多くの日本人が観光に訪れています。そして、日本人街があったとされる場所には、通称「日本橋」と呼ばれる木造の橋が架かっており、今でも通行の用に供されています (写真1)。

3. 「越日幼稚園」での読み聞かせ活動

私とベトナムとの関係が深まったのは、ベトナム戦争が終結して40年が経過した2015年からでした。

ご存じの通り、ベトナム戦争は膨大な数の犠牲者を出し、中でも北側の死者は民間人を含め数百万になるとも言われています。その「北」への攻撃、いわゆる北爆の最前線基地があった場所が、ダナンでした。

私は「戦争終結から40年が経過したダナンの街の様子が見たい」と、初めて訪れてみましたが、ダナンの街には、戦争の面影は全くなく、平和そのものでした。

そこで偶然出会ったのが「越日幼稚園」(ダナン保育園) という学校です。これは、日本に滞在経験のある女性の方が、ベトナムの子供にも日本の子供と同じように、しっかりした躾教育をしたいという理念から、私費で建造した学校です。

設立者の話に共感し、先方からの依頼もあったため、毎年2月頃、避寒旅行も兼ねて訪問し、子供たちに『花咲かじいさん』や『桃太郎』など昔話を日本語で読んで聞かせてあげています。

私が話した内容は、現地の大学で日本語を学んだ女性が通訳してくれます。子供たちの真剣な眼差し、無邪気に喜ぶ姿に癒され、このボランティア活動もいつの間にか6年が経過してしまいました (写真2)。



■写真2 ダナン保育園での読み聞かせの様子
(画像出所：筆者)

4. 21VNT(ベトナム貿易株式会社)との出会い

現在、私は、つくば市内のマンションに家内と2人で住んでいますが、すぐ近くにある筑波学院大学や筑波大学では、多くの留学生たちが学んでいます。

前述のようなベトナムとの関係を持っていたことで、市内でも何人かのベトナム人留学生との交流が自然と始まりました。

その1人が、2019年2月、ベトナムと日本との物産の交流を目的に「21VNT」(ベトナム貿易株式会社)を設立しました。会社運営のためには、留学ビザから経営ビザへの変更申請を行い、許可を得ることが必要です。しかし、1人で行ったこともあり、上手くいかなかったようです。

その後、行政書士に相談し、会社の名義はそのまま残して、翌年以降に再度申請することにしました。そして、縁が重なり、私が代表取締役の名義のみを継承することになったのです。その彼は、現在、ベトナムに戻り、数年後の日本出店を目指して頑張っています。

当社は、つくば市に会社登録をしてあります。2019年の秋には、「つくばカピオ」で開催された「つくば産業フェア」で、ベトナム産のコーヒーとカシューナッツを販売しました(写真3)。



■写真3 つくば産業フェアでの様子(画像出所：筆者)

それに加えて、私の提案で、ベトナムではすでに一部のコーヒーショップやレストラン等で普及されつつある天然の竹で作られたストロー(バンブー・ストロー)を展示しました。

来場客等から、このストローの評判が非常に高かったので、私はその後、つくば市の関係各課や付近の小学校、さらにコーヒーショップ等を訪問し、「脱プラ」への協力を求めました。しかし、皆さん、一応は趣旨を理解して下さるのですが、残念ながら、先陣を切って使用するとすると、やはり何かと壁があるようです。

5. 日本語サークル「日越語学学習」の立ち上げ

現在、21VNTの代表としては何の営業活動も行っていないませんが、個人の立場の活動として、2019年11月、「日越語学学習」というサークルを立ち上げました。

つくば市の「吾妻交流センター」を利用させていただき、週に1回、筑波大学の留学生等を相手に、日本語と日本の伝統文化等を教えています。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現在、メンバーは3人の女性しかいません。彼女たちの日本語レベルはまちまちで、まだ殆んど日本語を理解できない生徒もいます。そのような生徒に日本語を教える際は、英語を併用しています。

彼女達が日本語を学ぶ目的はそれぞれ異なりますし、性格も異なります。また、言葉の壁や習慣の違いに戸惑うことが多々あるのは事実です。

しかし、彼女たちの真面目な学習態度や天真爛漫な明るい笑顔に接すると癒されることも多く、さらに、ベトナム人の持つ穏やかな国民性に、こちらの方が勉強させられることもあります。今後も様々な活動を通して、ベトナムとの交流を続けていきたいと思っています(写真4)。



■写真4 日越語学学習サークルでの様子(画像出所：筆者)